

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価 (3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりに応じた指導と生徒の主体性を育む学習指導を推進する。 ②福祉マインドを培う教育活動を推進する。	①公開研究授業等において、全職員で教科横断的な授業の構築を目指す等、生徒の学力向上を踏まえた新教育課程を編成する。 ②福祉マインドの育成に向けて、近隣の横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携により「総合的な探究の時間」の内容を充実させ、障がい者理解につなげる。	①公開研究授業の担当教科を順番に割振り教科の偏りをなくすことにより、幅広い視点から授業研究に取り組む。 ①新教育課程編成指針の具体策に基づいた教育課程を編成する。 ②総合的な探究の時間において、課題設定に向けて市立日野中央高等特別支援学校との相互連携により内容を充実させる。	①教職員が社会との繋がりがりや幅広い視点を意識して授業研究に取り組んだか。 ①新教育課程を編成することができたか。 ②連携により、内容を充実することができたか。	①国語、英語、芸術(美術)で公開研究授業を行った。ICT教育の推進、社会と結びつくような幅広い視点から思考力・表現力の育成、「主体的・協働的な深い学び」の実現、に向けた授業実践を行うことができた。 ①新教育課程編成指針の具体策に基づいた教育課程表を作成した。 ②市立日野中央高等特別支援学校との相互連携による交流授業を行った。生徒間の交流や施設見学をとおして、相互の学校・生徒理解を深めることができた。	①新教育課程を踏まえた研究授業を更に充実させ、生徒の「主体的・協働的な深い学び」の実現に向けて、ICT教育を推進する。 ①県教育委員会と確認をしていく中で、選択科目等について微調整を行っていく。 ②市立日野中央高等特別支援学校との生徒間交流を深め、相互連携を推進し、連携内容をより充実させる。	①ICTの具体的内容はわかりませんが、学業に興味を抱く契機になってもらいたいと思います。主体性が発揮されれば、潜在能力に気づくと思います。 ①Google Classroomの活用について、対面対話が苦手な生徒等にはよいツールになるのではと思います。 ②人種差別問題など共生社会の実現と逆行する事案が多発するなか、日野中央特別支援学校との日常的な接点があることは大きなプラスポイントと認識しております。次年度に向けてその取り組みを推進されるようであり大変心強く感じました。	①各HR教室にプロジェクターが整備され、授業でICTを活用する教員が昨年よりも増加し、授業実践を積み重ねてきた。今後は、さらなる活用の拡大と「思考力・表現力の育成」や「主体的・協働的な深い学び」の実現に向けた活用の実践が課題である。 ①新教育課程編成指針の具体策に基づいた教育課程表を作成したが、履修順序や選択科目の設置内容について指摘を受けた。 ②市立日野中央高等特別支援学校との相互連携による交流授業を行った。生徒間の交流や施設見学を通して、相互の学校・生徒理解を深めることができたが、コロナ禍においても持続可能な連携について検討する必要がある。	①今後も研究授業を継続し、新教育課程を念頭に授業改善と実践のほか、ICT機器をより有効に活用するための環境の整備や拡充も検討する。 ①選択科目等について、県教育委員会と確認し、微調整を行い最終的な確定をする。 ②今後、コロナ禍における連携方法等を検討しながら、市立日野中央高等特別支援学校との生徒間交流を継続し、相互連携を推進し充実させる。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価 (3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
2	生徒指導 ・支援	豊かな人間性と社会性を育み、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。	①日頃から授業へ臨む姿勢やSNS等への注意喚起を通し、規範意識の醸成を図るとともに、支援を必要とする生徒のための教育相談体制を充実させる。 ②3学期制移行後の学校行事を、生徒が主体的に企画・運営を行う行事へと確立する。	①課題や提出物を効果的に使い、授業中や家庭での学習に積極的に取り組むことができる状況を作る。 ①SNS等、インターネットを利用する際のルールを生徒に周知徹底する。 ①スクールカウンセラーによる教育相談に関する校内研修会を実施する。 ②デジタル通信を活用することで、生徒・学級の意見を反映しやすくし、生徒会および学級・学年、部活動の連携を強化する。	①各教科の提出物等の提出状況が向上したか。 ①インターネット利用に関するトラブルが防止できたか。 ①教職員が生徒の支援に必要な知識や技術を身に付け、教育相談体制の構築に結び付けることができたか。 ②学校行事において、デジタル通信を活用することができたか。	① Google Classroom等を活用した提出等により、積極的な学習の取組や提出物を向上させることができた。 ① SNSに関するルールを生徒手帳に掲載するとともに各クラスに掲示し、学年集会、全校集会等で生徒への周知徹底を図った。 ①新型コロナウイルスの生徒たちに与える影響と対応に関する校内研修を実施した。 ②部活動紹介及び文化祭、生徒会役員選挙並びに生徒総会については、オンラインを活用して実施することができた。	① Google Classroom等の活用法を教科で共有するなど広く使えるようにする。 ① SNSに関するルールについて学年集会や全校集会で繰り返し継続的に注意喚起を行う。 ①校内研修で学んだ内容を今後の生徒対応の中でいかしていく。 ②デジタル通信の活用方法を工夫し、生徒がより主体的に企画・運営できるようにする。	①Google Classroomの導入について、実際に活用されており先生方の努力の成果だと感じます。 ①Google Classroomの活用について、対面対話が苦手な生徒にはよいツールになるのではと思います。 ②コロナの影響にもかかわらず、部活動で結果を出せることは生徒の皆さんにとって大きな自信につながっていると思いました。	①Google Classroom等の活用はある程度定着し、成果を得たが、すべての生徒が使いこなせるよう取り組む必要がある。 ①SNSのルールについては周知徹底が図られたが、新入生等への対応が必要である。 ①教育相談体制は、2回の研修を行い、関係職員等との連携がより円滑になったが、継続して連携を図る必要がある。 ①新型コロナウイルスによる不安を感じる生徒への対応を整備したが、より身近な相談体制を構築する必要がある。 ②生徒総会等生徒会行事について、オンラインを活用して実施することができたが、教員が主導するところがあった。	①Classi等他ツールも含め、ICT機器を使いこなせるように環境を整備するとともに、SNSのルールについては継続して取り組む。 ①支援を必要とする生徒に対して、研修等を活かし学校、保護者、SC及びSWと連携を図り、ケース会議等を実施しながら、個々に対応を深めていく。 ②デジタル通信の活用方法を工夫し、生徒がより主体的に企画・運営できるようにする。
3	進路指導 ・支援	①生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。 ②進路指導計画の充実を図る。	①1年次より生徒が自己実現に向けて、学び実践する場を提供し進路を自ら切り開く姿勢を育成する。 ②大学入試変革に対応した進路指導及び調査書作成を実践する。	①総合的な学習(探究)の時間等で進路別ガイダンスを行うなど生徒の進路実現へ向け計画的なキャリア教育に取り組む。 ②大学入試制度の変革に係る情報を収集し、生徒へ情報を発信する。	①計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。 ②情報を収集し、生徒に発信できたか。	①3学年は総合的な学習の時間内に3回、3学年はLHRの時間に2回進路別ガイダンスを行った結果、生徒の進路実現へ向けての意欲を向上させた。 ②大学入試制度の改革に係る情報の発信等について、Google Classroomを活用することができた。	①年度当初の計画が大幅な変更を余儀なくされたため、1学年では実施できていない。年度末に1・2学年合同で進路別ガイダンスを3月24日(水)に行った。 ②コロナ禍により面接がオンラインへ変更になるなど学校ごとの通知がバラバラであったが、漏れなく伝達することができた。	①1年次からの進路指導には大賛成です。 ①下校時の雰囲気は優しく、おらかなイメージで、スロースターターの生徒さんが多い気がしています。若い生徒さんに人生設計は無理でしょうから、今後の幅が確保できるように、次のステージに立ってほしいと思います。	①初めての試みの1・2学年合同での進路別ガイダンスの生徒アンケート結果は良いとの回答が97%と好評であったが、生徒の把握など円滑に取り組む必要がある。 ②進路実現及び一般選抜に向けて自己の実力の把握と向上を図ることができたが、より多くの生徒が進学で実績を上げる必要がある。	①行事「進路の日」における進路別ガイダンスの朝の出席状況等生徒の動きの把握、各教室の職員配置など計画の実行について、より円滑に行えるよう改善したい。 ②来年度から1・2学年で導入するClassiを活用し、進路実現及び一般選抜に向けた生徒の実力及び実績の向上を図る。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価 (3月18日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	地域との連携・協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	<p>①地域貢献活動及びボランティア活動を活性化させ、「ともに生きる」ところを育む。</p> <p>②年度当初より教職員・生徒の防災意識を高めるとともに、地域区町と連携した防災体制を構築する。</p>	<p>①ボランティア委員会で地域と連携した活動等に取り組む。</p> <p>①学年別に実施する地域清掃を年間計画に位置付け、地域の実態に応じて有効な清掃計画を企画・実施する。</p> <p>②1学年災害図上訓練を4月に実施し、生徒の防災意識を高める。また、地域と連携した防災訓練に積極的に参加する。</p>	<p>①地域の活動等に多くのボランティア委員が貢献することができたか。</p> <p>①学年別の地域清掃を効果的に効率よく実施することができたか。</p> <p>②地域の防災訓練に昨年度より多くの生徒や教員が参加できたか。</p>	<p>①地域貢献活動については、感染症対策により全学年で実施することはしませんが、部活動有志により12月4日(金)に1時間程度地域清掃を行った。10運動部と7文化部の生徒205名が参加した。</p> <p>①10月12日(月)～10月16日(金)に地域に貢献できる活動としてボランティア委員会で緑の羽根募金を実施した。</p> <p>②10月25日(日)地域の防災訓練は中止となったが、連携体制は構築できている。5月22日(金)予定の方面別下校訓練は、8月21日(金)に防災訓練とともに実施した。防災訓練は、体育館ではなく各教室でGoogle Meetで行い、防災意識を高めた。</p>	<p>①部活動活性化の一環として、活動支援Gと連携しての取組であるが、きめ細かく指導できるという点で効果的である。</p> <p>①緑の羽根募金では、3,766円の協力が得られた。生徒の地域貢献への意識を高めるきっかけとなった。</p> <p>②避難場所への避難は実施しなかったが、シェイクアウト訓練やヘルメット装着、防災講話などにより、防災意識を高めることができた。</p>	<p>②毎年ご協力いただいている防災訓練を令和2年度は中止し、申し訳ありませんでした。今後ともご協力をお願いします。生徒さんに接する機会を楽しみにしています。</p>	<p>①地域貢献活動について、感染症対策により全学年で実施することができなかったが、部活動有志により生徒205名が地域清掃に参加した。コロナ禍における地域貢献活動について検討する必要がある。</p> <p>①ボランティア委員会で緑の羽根募金を実施し地域貢献に取り組むことができたが、より意識を高める必要がある。</p> <p>①学校運営協議会の意見及び地元自治会と交流することにより、地域と連携することができたが、感染症予防の観点から書面開催となった。</p> <p>②感染症予防のため、防災訓練はGoogle Meetを活用して円滑に実施することができたが、各教室において実施したため、訓練の効果を評価することが難しい。</p>	<p>①地域貢献活動について、感染症予防を講じながら継続可能で多くの生徒が参加可能となる仕組みづくり等に改善する。</p> <p>①ボランティア委員による緑の羽根募金等の活動を積極的に進める。</p> <p>①コロナ禍においても、多様なツールを活用することにより、地元自治会等との継続的な連携を講じる。</p> <p>②引き続き、感染症予防の観点からGoogle Meetを活用した訓練が想定されることから、訓練の効果を確認できるような仕組みを取り入れる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価 (3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。</p>	<p>①生徒の安全面に最大限配慮した環境を整備する。</p> <p>②タイムマネジメントを確立し、教員が健康で働きやすい職場づくりを推進する。</p> <p>③事故・不祥事防止について教員の意識を高める</p>	<p>①感染症予防のため、手洗い・うがい・咳エチケット等の指導をし、生徒に定着させる。可能な限り消毒液による校内清掃に取り組む。</p> <p>①きめ細かな清掃活動をおして学校施設及び備品の状況に常に目を配り、事故防止に努める。</p> <p>①災害時の安全に配慮した避難訓練や下校訓練を企画・実施する。</p> <p>③事故防止に対する意識を高めるような研修会を実施する。</p>	<p>①感染症予防の習慣が生徒に浸透したか。</p> <p>②清掃用具の充実及び清掃活動徹底により安全な学校設備を維持することができたか。</p> <p>①訓練時に、生徒は安全を意識して行動することができたか。</p> <p>③教職員の事故防止への意識が高まったか。</p>	<p>①登校時を中心に指導を行ったことで、生徒に手洗い・うがい・手指消毒の習慣が身に付いてきている。日常的に消毒液を用いた清掃活動を実施した。</p> <p>①校内清掃場所を整理し、清掃個所にもれがないように清掃分担を行うとともに、各階にダスキンモップを常置し、校内美化を図った。また、コロナ感染予防のため、ゴミ箱を撤去し、ゴミの持ち帰りの徹底を図った。</p> <p>②職員会議・企画会議・グループ会議・学年会議などの会議の設定を調整し、教材研究の時間を確保するとともに、働き方改善を進めた。</p> <p>③事故・不祥事防止研修については、7月17日(金)「調査書・通知票等に係る事故の防止について」の研修を外部講師で行う予定であったが、校内研修とした。</p>	<p>①手洗い・うがい・マスク着用等の生徒への意識付けは、今後も継続して行っていく必要がある。</p> <p>①トイレ業者清掃を月2回にしたこと、各階の廊下にダスキンモップを置いたことにより、校内はきれいになった。一方で、ゴミの持ち帰りについては、一部の生徒に徹底できず課題が残り、さらなる指導の徹底が必要である。</p> <p>②コロナ禍により、放課後の会議が増えて、一部の教員に負担がかかっていることが課題である。</p> <p>③管理職による校内研修であったが、事故防止の意識は高まった。</p>	<p>①②「令和2年度数値目標」すべてクリアできているのも、皆様方に支えられてのことと思います。すべての行事、イベント、作業、会議等が一部の方の負担にならないことを望みます。</p> <p>②大人も生徒も身体と心が健康であってこそです。生徒のことを思うばかりに、皆様が疲れては身も蓋もありません、決して無理のないようお願いいたします。</p>	<p>①生徒に対して、感染症予防の習慣を身に付けさせることができたが、3蜜を避けるなど全員に浸透していないところがある。</p> <p>③事故・不祥事防止研修について研修などを通して高めることとしたが、より効果的な取り組みが必要である。</p>	<p>①生徒に感染症予防の習慣を確実に身に付けさせるとともに、また清掃活動等学校生活において、生徒及び教員の感染症予防を図ることにより、さらなる環境整備の措置を講じる。</p> <p>③事故・不祥事に関する注意事項は速やかに職員室内に掲示し「見える化」に努め、周知徹底を図るとともに、事故・不祥事防止の標語づくりと発表を通して、さらに意識を高める。</p>